

感染症対策に関する意識調査（4月調査）

福岡市 感染症対策に関する意識調査

■調査概要

・調査目的

市民の感染症に対する予防意識を把握し、今後の感染症対策の推進における基礎資料とする。

・調査手法

WEB調査

・調査期間

2021年4月9日（金），10日（土）

・調査対象者，及びサンプル数

福岡市在住の20歳以上の男女 300サンプル

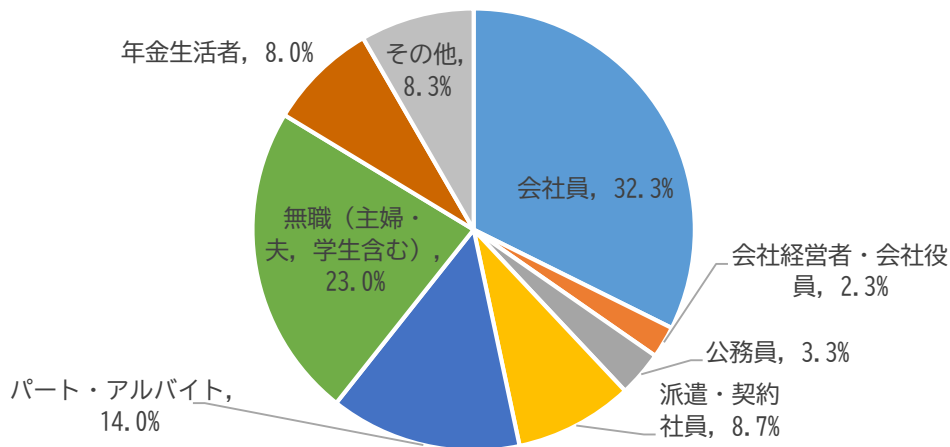
■回答者情報

・性別×年代 n=300

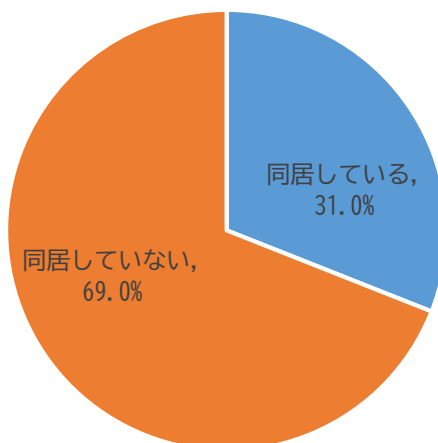
	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	30	30	30	30	30	150
女性	30	30	30	30	30	150
計	60	60	60	60	60	300

※性別，年代別に把握するため，各30サンプルずつ割り付け

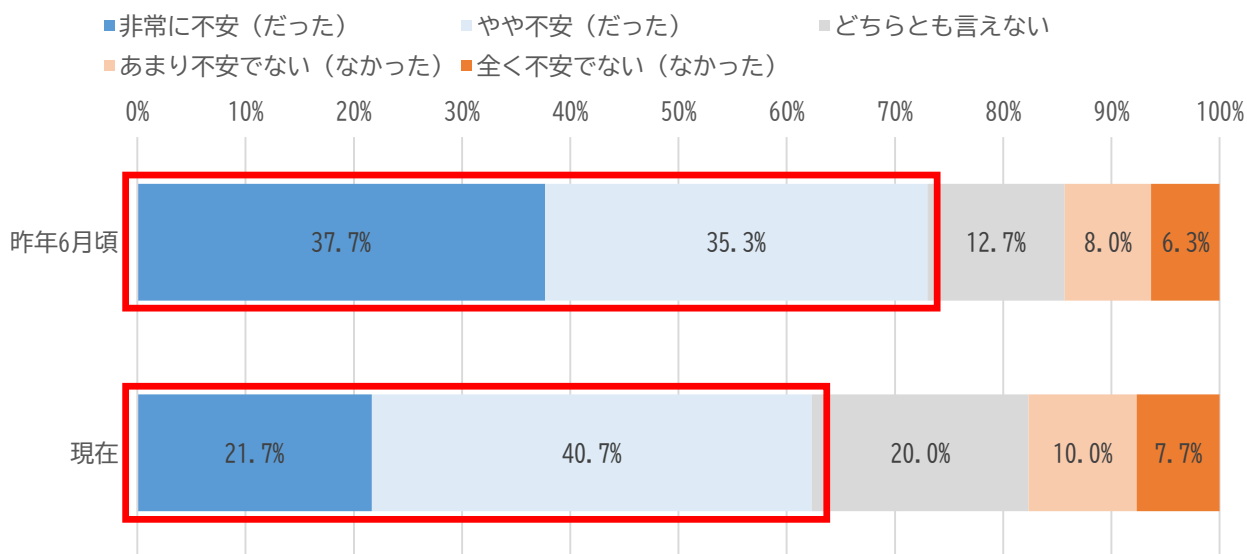
・職業 n=300



・65歳以上の方，または中学生以下の子どもとの同居 n=300

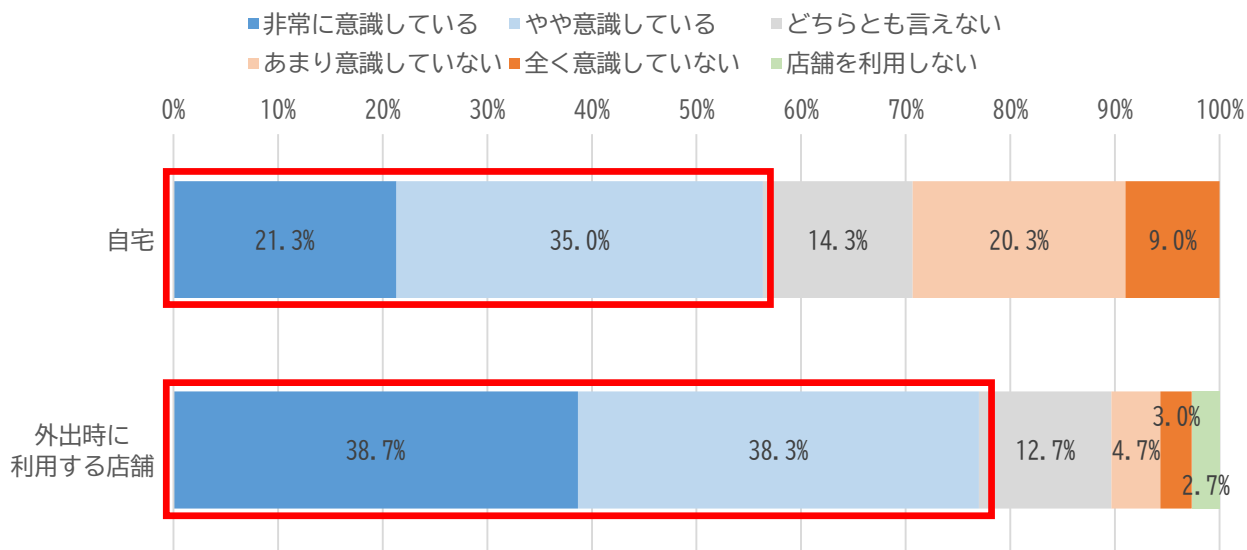


感染症拡大に対する不安については、現在は新しい生活様式が定着してきたことなどにより、「非常に不安」「やや不安」に思う人の割合は、「令和2年6月」と比べて減少しているが、依然として6割以上の人不安を感じている。



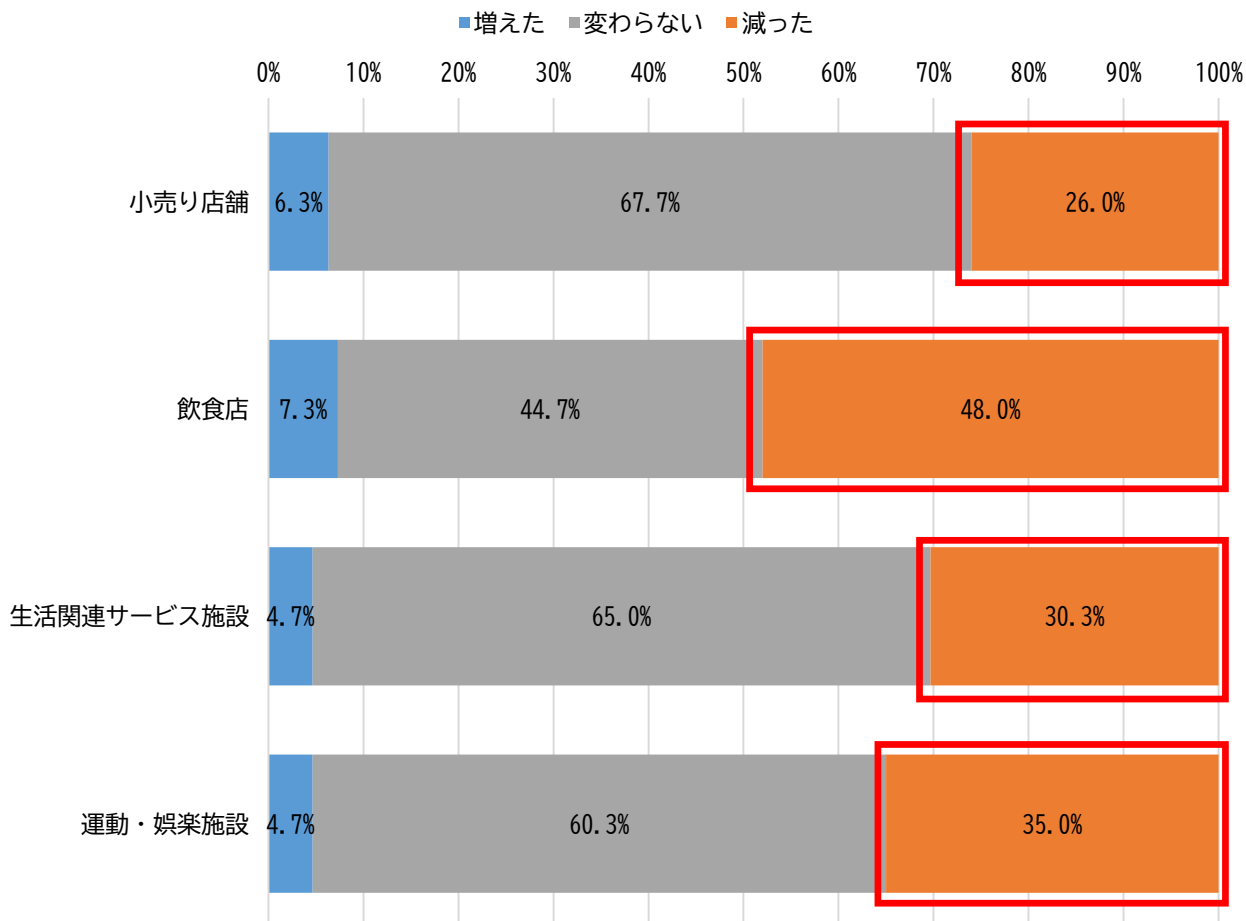
Q あなたはコロナウイルス感染症の拡大にどの程度不安がありますか（ありましたか）。
「昨年の緊急事態宣言解除後の令和2年6月」と「現在」、それぞれについてお答えください。
(n=300)

感染予防への意識については、「自宅」においても約6割が意識しており、外出時には、さらに多くの約8割が意識している。



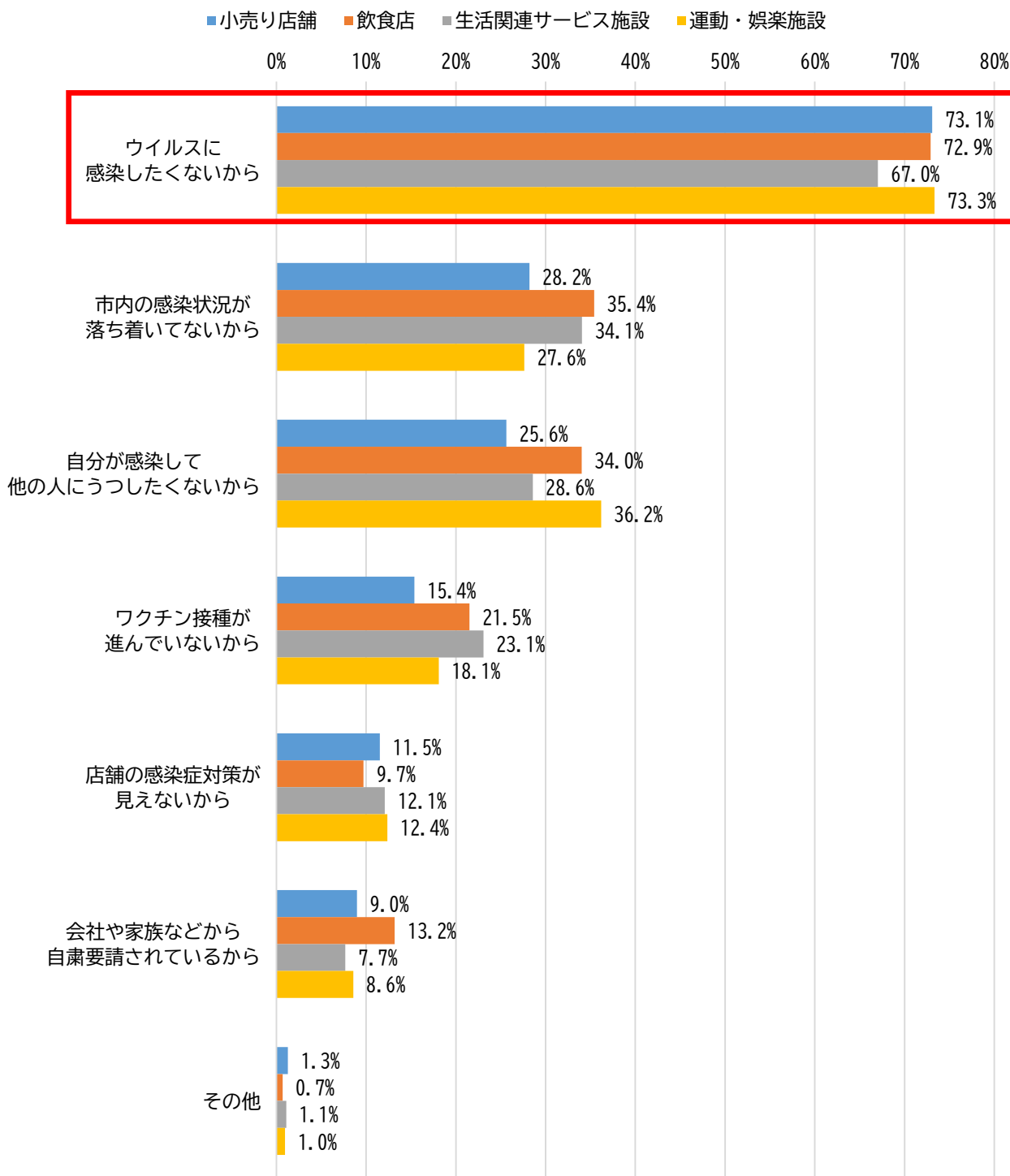
Q あなたはコロナウイルス感染症の感染予防をどの程度意識していますか。
「自宅」と「外出時に利用する店舗」、それぞれの場面についてお答えください。(n=300)

外出して店舗を利用する頻度については、飲食店は、約5割が「令和2年6月」と比べて利用頻度が減っている。
その他の店舗においても、約3割が利用頻度が減っている。



Q あなたは「昨年の緊急事態宣言解除後の令和2年6月」と比べて、外出して店舗を利用する頻度が変わりましたか。店舗別にお選びください。(n=300)

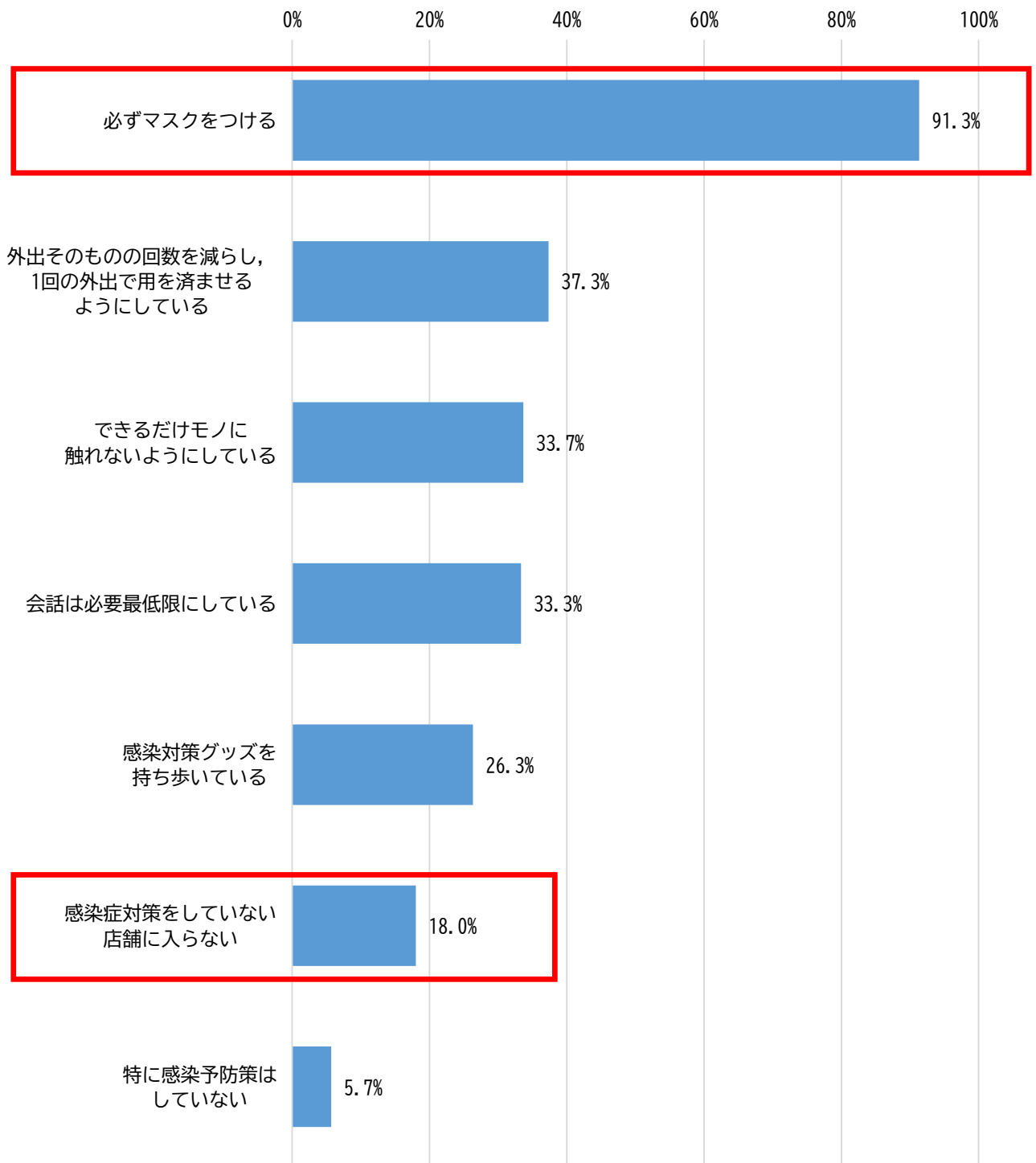
外出して店舗を利用する頻度が減った理由として、約7割が「ウイルスに感染したくないから」と回答しており、利用頻度の回復に向けては、店舗における感染症対策が重要である。



Q 外出して店舗を利用する頻度が減った理由を店舗別に全て教えてください。（複数回答可）
 （小売り店舗 n=78, 飲食店 n=144, 生活関連サービス施設 n=91, 運動・娯楽施設 n=105）

外出時の感染予防策として、「マスクの着用」は9割以上が実施しており、その他にも「外出回数を減らす」、「モノに触れない」、「会話を必要最低限に」は3割以上の方が実施している。

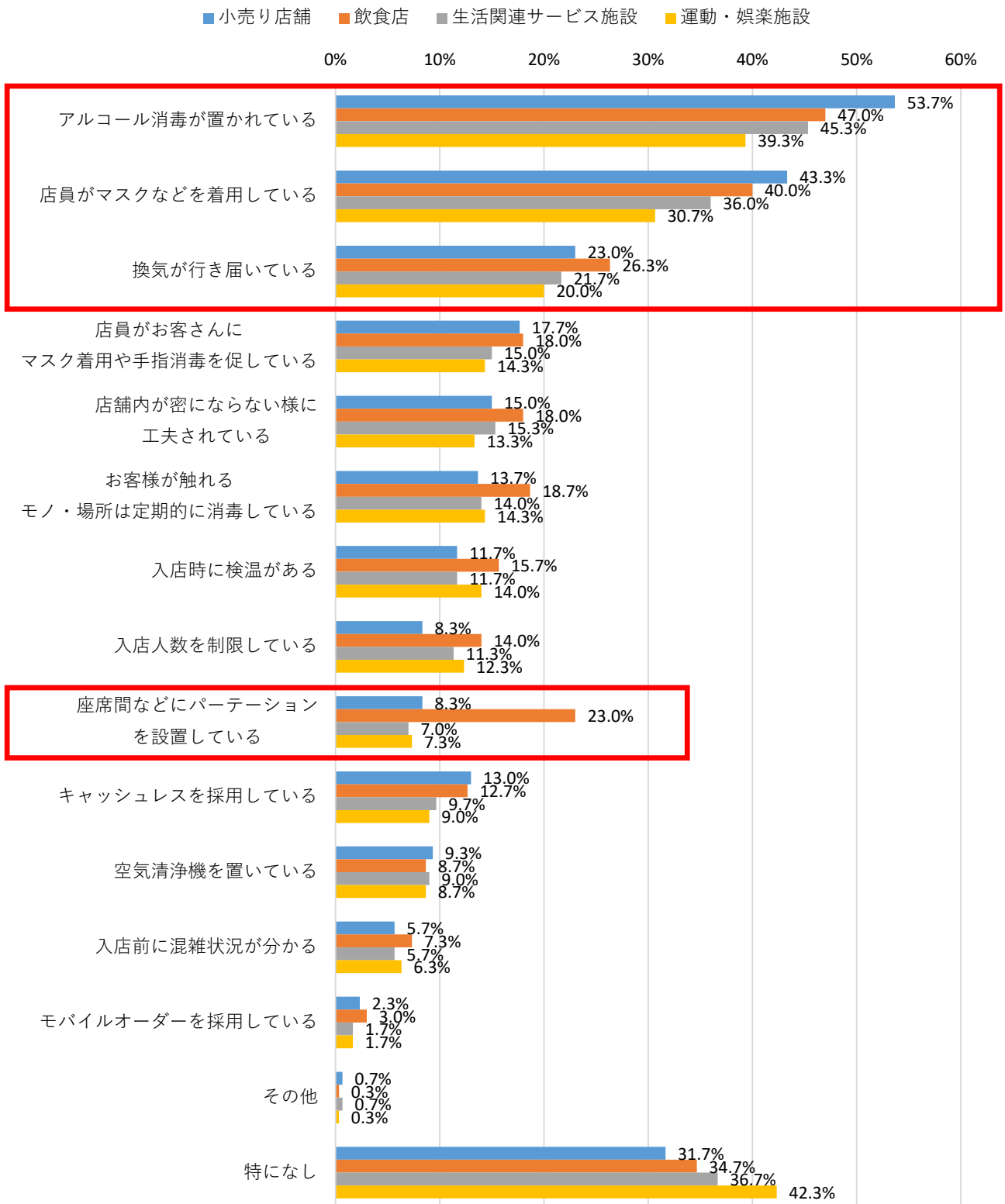
また、「感染症対策をしていない店舗に入らない」と、約2割も回答している。



Q あなたが外出の際に行っている感染予防策を全てお選びください。（複数回答可）（n=300）

店舗を選ぶ際に重視している感染予防策については、「アルコール消毒が置かれている」「店員がマスクなどを着用している」「換気が行き届いている」を重視している人が多い。

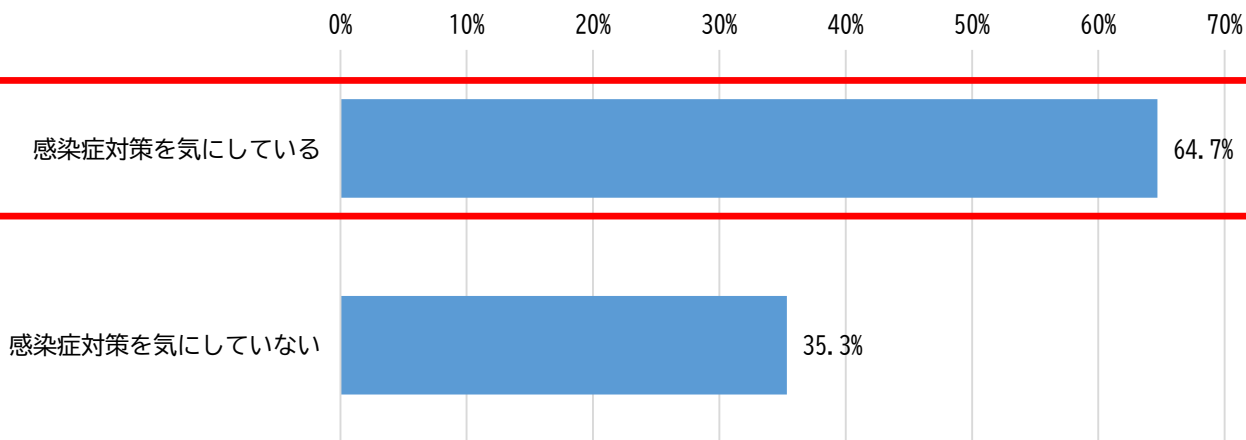
また、飲食店では、「座席間などにパーテーションを設置」も重視されている。



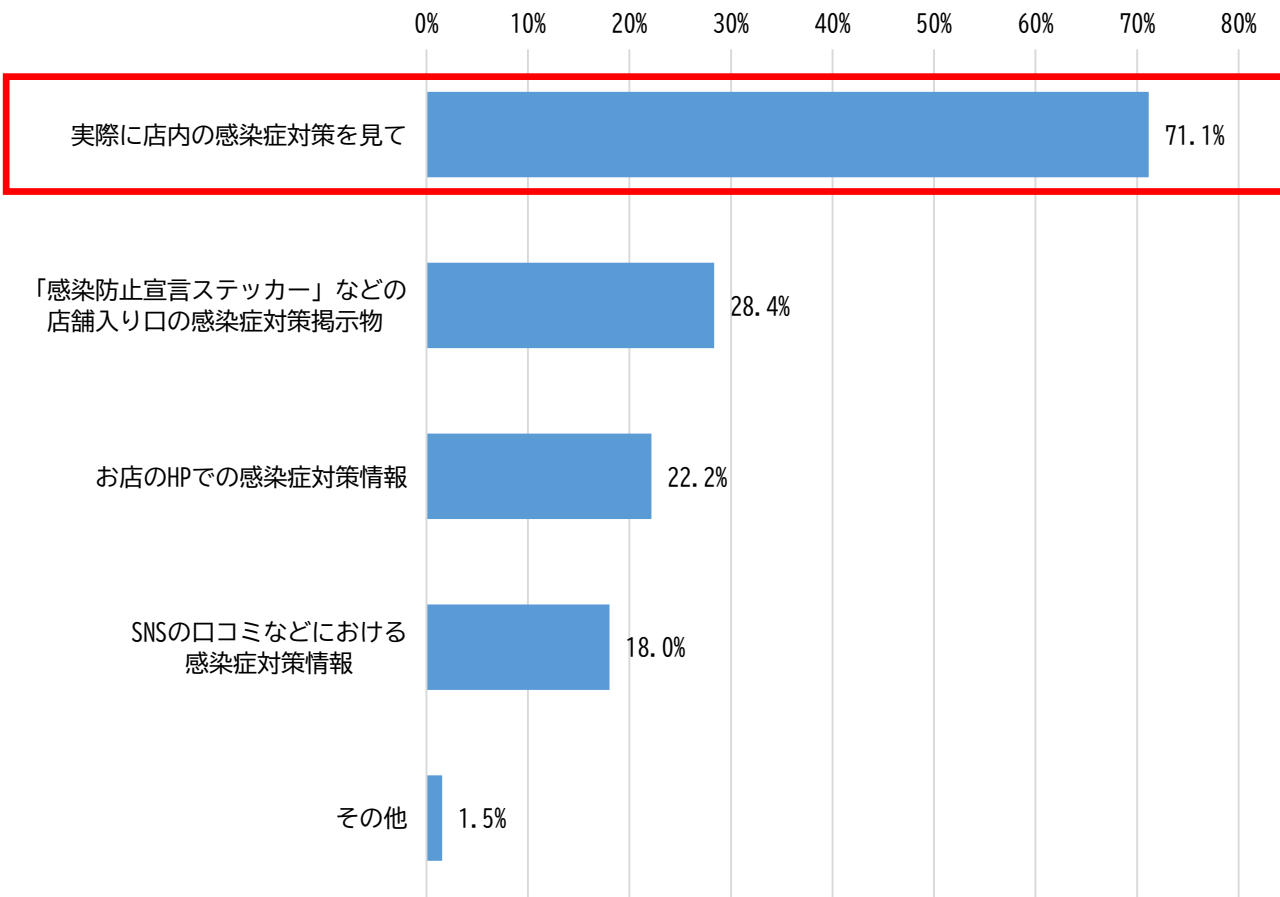
Q あなたが外出先で利用する店舗を選ぶ際に重視している感染予防策を全てお選びください。
(複数回答可) (各店舗 n=300)

店舗を選ぶ際に感染症対策を気にしているかについては、約6割の人が気にしていると回答。

また、感染症対策を気にしている人が店舗を選ぶ際に参考になっているものについては、約7割が「実際に店内の感染症対策を見て」と回答。



Q あなたは外出先で利用する店舗を選ぶ際、感染症対策について気にしていますか。(n=300)



Q あなたは外出先で利用する店舗を選ぶ際、感染症対策についてどのようなことを参考に決めていますか。いくつでもお選びください。(複数回答可) (n=194)